

氏名	野 中 文 貴
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年3月31日
学位授与の要件	医学研究科外科系眼科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Convergence Accommodation to Convergence(CA/C) Ratio in Patients with Intermittent Exotropia and Decompensated Exophoria (間歇性外斜視および代償不全型外斜位の症例におけるCA/C比 の検討)
論文審査委員	教授 阿部 康二 教授 伊達 勲 教授 西崎 和則

#### 学位論文内容の要旨

近方の対象物を注視するとき、調節、輻湊、縮瞳が同時に、しかも連動して起こる(近見反射)。輻湊制御系の調節制御系への影響の強さはCA/C (Convergence Accommodation to Convergence) 比で、逆に調節制御系の輻湊制御系への影響の強さはAC/A 比で表される。AC/A 比は斜視の治療方針を立てる上で重要な指標であるが、CA/C 比については測定の困難さから十分検討されていない。そこで我々は Tsuetaki らが提唱する新しい検査法を用いて、斜視症例における CA/C 比の測定を試み、さらに AC/A 比、眼位、ならびに調節安静位などの臨床所見と CA/C 比を比較し、その臨床的意義を検討した。対象は間歇性外斜視および代償不全型外斜位の 78 例、対照は正常者 10 名とした。眼前 40cm においたガウス分布視標と両眼開放型赤外線オートレフを用いてプリズムにより輻湊刺激を与え、これに対する調節反応量をもとに CA/C 比を算出した。斜視群、正常群の平均 CA/C 比 (diopeters/prism diopters, D/PD) は、それぞれ  $0.080 \pm 0.043$  D/PD、 $0.091 \pm 0.036$  D/PD となり、その分布に差はなかった。CA/C 比と調節安静位および近見眼位の間には有意な相関がみられ、斜視手術例では非手術例に比べ CA/C 比が有意に大きくなった。一方、遠見、近見眼位の差と CA/C 比に関連はなかった。これらの結果から CA/C 比は斜視の有無に関係なく一定した分布範囲を示す一方で、調節と輻湊の関連性を評価するための独立した指標となること、また、CA/C 比は外斜偏位の程度や手術前後の眼位変化に順応して変化すると結論した。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は間欠性外斜視および代償不全型外斜位患者における CA/C (Convergence Accommodation to Convergence) 比の検討を中心に、AC/A 比や眼位、調節安静位などの臨床所見との比較を通してその臨床的意義を検討したものである。間欠性外斜視および代償不全型外斜位の患者 78 例と正常者 10 名を対象として検討した結果、斜視群と正常群の平均 CA/C 比は、それぞれ  $0.080 \pm 0.043$  D/PD、 $0.091 \pm 0.036$  D/PD となり、その分布に差はなかった。一方 CA/C 比と調節安静位および近見眼位の間には有意な相関がみられ、斜視手術例では非手術例に比べ CA/C 比が有意に大きかった。一方、遠見、近見眼位の差と CA/C 比に関連はなかった。このように本研究により、CA/C 比は斜視の有無に関係なく一定した分布範囲を示す一方で、調節と輻湊の関連性を評価するための独立した指標となること、また外斜偏位の程度や手術前後の眼位変化に順応して変化することが明らかにされた。

よって本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。